

zhī zhī zhě bù rú hào zhī zhě  
知之者不如好之者

これ 之を知る者は之を好む者に如かず 〈雍也第六〉

うえだ あつ お  
桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄

この表題に続く言葉は「好之者不如乐之者(hào zhī zhě bù rú lè zhī zhě)」「之を好む者は之を樂しむ者に如かず」です。物事に対して、しっかりした知識を持つことは大事なことです、ただ知っているというだけでは不十分です。好きになることにはかなわない。好きになることも結構ですが、それを樂しむことにはかなわない。孔子の言わんとすることはそういうことですが、では何について言っているのか、つまり「之」が何を指すのか、この文だけでははっきりしません。『論語』にはこういう例が数多く見られます。『論語』は多くの場合、弟子たちとの対話記録なので、その場にいた弟子たちとの間では、敢えて言わなくても暗黙の了解があったものと思われま

一方、『論語』の他の所では「仁を好む」「義を好む」「礼を好む」「徳を好む」「学を好む」等の言葉が盛んに出てきます。恐らくこのような徳目について語ったものに違いありません。「仁」「義」「礼」「徳」「学」、どの言葉を持ってきても当てはまります。「仁」とは人間らしい優しい心を持つこと、「義」とは人のために尽くすこと、「礼」とは秩序ある行動をとること、「徳」とは気高い心を持つこと、「学」とは謙虚に学ぶこと、何れにしても、人として当然目指すべき目標です。この場合の「好む」とは、これらのことを他から迫られてやるのではなく、自ら好んで行うということです。

では、孔子は自分自身のことをどのように見ていたのでしょうか。

「我非生而知之者。好古，敏以求之者也(wǒ fēi shēng ér zhī zhī zhě。 hào gǔ, mǐn yǐ qiú zhī

zhě yě)」「(我は生まれながらにして之を知る者に非ず。古を好み、敏にして以て之を求むる者なり)〈述而第七〉。私は生まれながらにして物事が分かっているわけではない。自ら進んで歴史から学び、これを怠りなく追求しているだけである、と。ここでも「之」が何を指すか明言していませんが、「仁」「義」「礼」「徳」等、何れの語を当てはめることも可能です。「古を好む」とは、自ら好んで過去の歴史から学ぶということです。

では、「樂しむ」についてはどうでしょうか。孔子は自分のことを、こう評しています。

「其为人也，发愤忘食，乐以忘忧，不知老之将至(qí wéi rén yě, fā fèn wàng shí, lè yǐ wàng yōu, bù zhī lǎo zhī jiāng zhì)」「(其の人と為りや、発憤して食を忘れ、楽しんで以て憂いを忘れ、老いの將に至らんとするを知らず)〈述而第七〉。やるぞと思えば食事も忘れ、楽しんでやれば嫌なことも忘れ、老いが近づいていることすら気づかない。私はそんな人間だ、と。

やるべきことを楽しむことができる人。孔子は楽しみ方を、実に見事に心得た人でもあったようです。

話は少し飛びますが、お馴染みの『ピーターパン』の作者ジェームス・バリーは「幸福の秘訣は、やりたいことをすることではなく、やるべきことを好きになることだ」と言っています。バリーは19世紀末から20世紀前半にかけて活躍したイギリスの童話作家ですが、奇しくもこの言葉は、2500年前、春秋の世を生きた孔子の言葉に重なって見えます。

(わりい「中国語で読む漢詩の会」講師)